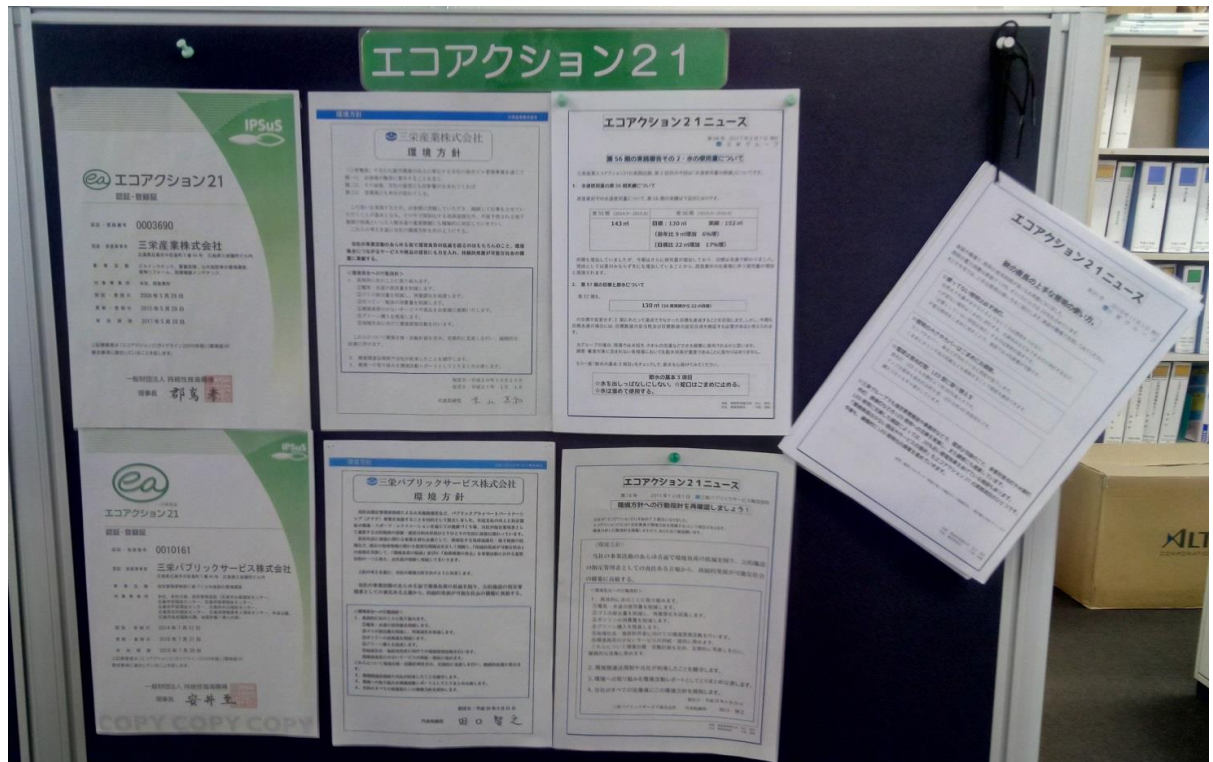


環境活動レポート

(期間：第56期 平成27年9月1日～平成28年8月31日)



(エコアクション21 告知スペース (西営業所))

平成29年2月28日発行

1 環境方針

三栄産業株式会社は、次の環境方針に基づき環境保全活動に取り組んでいます。

環境方針 三栄産業株式会社

「三者繁栄」すなわち都市環境の向上に奉仕する当社の総合ビル管理事業を通じて

第一に お客様の繁栄に寄与することを念じ

第二に その結果、当社の経営にも好影響が生まれてくれば

第三に 従業員にも幸せが訪れてくる。

この思いを実現するため、お客様に信頼していただき、継続して仕事をさせていただくことが基本となる。その中で深刻化する地球温暖化や、今後予想される地下資源の枯渇といった人類共通の重要課題にも積極的に対応していきたい。

これらの考えを基に当社の環境方針を次のようにする。

当社の事業活動のあらゆる面で環境負荷の低減を図るのはもちろんのこと、環境保全につながるサービスや商品の提供にも力を入れ、持続的発展が可能な社会の構築に貢献する。

<環境保全への行動指針>

1. 具体的に次のことに取り組めます。

- ①電気・水道の使用量を削減します。
- ②ゴミの排出量を削減し、再資源化を促進します。
- ③ガソリン・軽油の消費量を削減します。
- ④環境負荷の少ないサービスや商品をお客様に提案いたします。
- ⑤グリーン購入を推進します。
- ⑥地域社会に向けて環境啓発活動を行います。

これらについて環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。

3. 環境への取り組みを環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。

制定日：平成20年10月20日

改訂日：平成27年1月 1日

代表取締役 米山 真和

2 組織の概要

(1) 事業者名および代表者氏名

三栄産業株式会社
代表取締役 米山 真和

(2) 所在地

本社 〒730-0011 広島市中区基町5番44号(広島商工会議所ビル内)
西営業所 〒733-0035 広島市西区南観音7丁目6番22号

(3) 環境管理関係者の連絡先

環境管理責任者 : 米山 真和 (代表取締役)
環境事務局担当 : 今城 透雄 (西営業所 クリーン事業部)
連絡先 : ☎082-232-0533 (<http://www.3ei-kk.com/>)

(4) 主な事業内容

ビルメンテナンス、警備保障、公共施設等の管理運営、建物リフォーム
設備機器メンテナンス

(5) 事業の規模

売上高 1,299百万円 (第56期・平成28年8月)
総従業員数 406人 (平成28年12月)
床面積 411㎡ (平成28年12月)

(6) 対象範囲 (認証・登録範囲)

①組織：本社及び西営業所の全組織 (従業員数 35人)

(注)：従業員数406人のうち、受注先の管理下で常駐してビル管理業務等を実施している従業員(371名)は対象範囲に含めていません。

②事業活動：上記(4)のとおり。

3 環境目標

項目 【基準】	第55期 (H26.9~H27.8)	第56期 (H27.9~H28.8)
電力の二酸化炭素排出量の削減 【第48期 33,658kg-CO ₂ 】 【第48期 46,233kWh】	△30% 23,560kg-CO ₂ 32,363kWh	△30% 23,560kg-CO ₂ 32,363kWh
ガソリンと軽油使用料の削減 【第48期 91,661 kg-CO ₂ 】 【第48期 ガソリン 26,469ℓ】 【第48期 軽油 11,546ℓ】	△11% 81,578 kg-CO ₂ 23,557ℓ 10,275ℓ	△15% 77,912 kg-CO ₂ 22,498ℓ 9,814ℓ
自動車燃費の向上 【第50期 9.87 km/ℓ】	+30% 12.83 km/ℓ	+30% 12.83 km/ℓ
環境負荷の少ないサービスや商品を提供する	3件/年	4件/年
グリーン購入の推進	1件/年	2件/年
一般廃棄物の削減 【第51期 394 kg】	△20% 315kg	△30% 276kg
水道使用量の削減 【第48期 270 m ³ 】	△52% 130 m ³	△52% 130 m ³
地域社会に向けた環境啓発活動	2か所/年	2か所/年

注1：電気の二酸化炭素排出量は中国電力㈱の平成22年度排出係数0.728を使用しています。

注2：化学物質の排出に関しては少量であることから目標を設定せず、適切に管理していることを定期的に確認することとしています。

4 環境目標の実績

第56期の環境目標達成状況【期間：平成27年9月～平成28年8月】

項目	目標値	実績	評価
電力の二酸化炭素排出量の削減	23,560kg-CO ₂ 32,363kWh	25,396kg-CO ₂ 34,884kWh	×
ガソリンと軽油使用量の削減	77,912 kg-CO ₂ ガソリン 22,498ℓ 軽油 9,814ℓ	73,395 kg-CO ₂ ガソリン 25,708ℓ 軽油 5,249ℓ	○
(参考) CO ₂ 排出量	101,472 kg-CO ₂	98,791kg-CO ₂	○
自動車の燃費向上	12.83 km/ℓ	12.31 km/ℓ	×
環境負荷の少ない商品やサービスを提供する	4件/年	4件/年	○

項目	目標値	実績	評価
グリーン購入の推進	2 件/年	3 件/年	○
一般廃棄物の削減	276kg	292kg	×
水道使用量の削減	130 m ³	152 m ³	×
地域社会に向けた環境啓発活動	2 か所/年	3 か所/年	○

注 1：電気の二酸化炭素排出量は中国電力㈱の平成 22 年度排出係数 0.728 を使用しています。

5 環境活動の取り組み内容と結果の評価および次期への取り組み

取組内容	結果の評価と次期の取り組み内容
電力の二酸化炭素排出量の削減 <ul style="list-style-type: none"> 不要照明の消灯 クール・ウォームビズ運動 外出時の PC の電源 OFF 冷房 28℃、暖房 20℃ 	5 月までは好成績で推移していたものの、空調用の夏季の低圧電力が昨期を上回ったことで最終的には目標未達で終了した。数値も昨期より悪化している。 夏季の冷房が結果として目標達成を阻んだ形であるが、さらなる改善を図ること。
ガソリンと軽油使用量の削減 <ul style="list-style-type: none"> アイドリングストップ 急加速、急停車の防止 冷暖房の控え目使用 	大幅に改善して目標達成。 燃費効率の良い乗用車の増加や、軽油使用量の減少などが目標達成に寄与したと考えられる。 ガソリン使用量は社用車の増加や社員の増加などで今後増加していくと推移されるので、出来る限りエコドライブに留意し増加を抑えていくこと。
自動車の燃費向上 <ul style="list-style-type: none"> アイドリングストップ 急加速、急停車の防止 冷暖房の控え目使用 	社用車の見直し、燃費の良い車の増加などで昨期よりは成績が良くなってはいるが目標には未達。 エコドライブへの認識は安全運転教育などでも定期的に周知しているが、夏季の燃費悪化、ワゴンタイプの車両の燃費がなかなか改善できていない。 社用車の仕様により改善が難しい面もあるが、地道にエコドライブを続ける他ないと考える。 なお、燃費目標に関しては次期も達成が難しいようであれば見直す方向ですすめる。
環境負荷の少ない商品やサービスを提供する <ul style="list-style-type: none"> 省エネ対応機器（照明等）の取替工事 	3 箇所 4 件（上野学園ホール 2 件、山口県のリサイクルショップ、三菱 UFJ 信託銀行寮の通路）で LED 照明切り替え工事を受注・実施。目標達成。 コンスタントな営業提案により安定した工事受注があったことが目標達成に繋がったと思われる。今後も継続して顧客に提案していくこと。

取組内容	結果の評価と次期の取り組み内容
グリーン購入の推進 ・消耗品は環境に配慮したものに切替える	8月に本社及び西営業所の複合機を3台リースアップした際、グリーン購入に適応した商品に切り替えたため目標は達成した。 但し、継続課題の西営業所の1階のLED化は今期もめどを立てられなかった。
一般廃棄物の削減 ・ミスコピーの防止 ・印刷前確認の励行 ・古紙のリサイクル化 ・4R活動の推進	昨期より排出量も増加し目標未達で終了。 再利用できないゴミが増加したことは明らかだった一方、記録原紙から推測すると、再利用できないゴミ・その他のゴミ共に排出量記録の付け忘れが増えているのではないかと。今後の実践で目標自体の有効性、目標設定、記録方法等について再検討が必要
水道使用量の削減 ・節水呼びかけ	春期を除いて使用量が増加していることにより目標未達。西営業所の社員の増加が主な要因。 次期も今期の目標を維持し達成を図ることを目標としつつも、状況に応じて目標の妥当性に留意しつつ見直しも必要ではないかと。
地域社会に向けた環境啓発活動 ・グリーンカーテンの作成 ・地域で行われる環境保全活動への参加	クリーンウォークひろしま、クリーン太田川、平和記念公園の清掃奉仕の3つの活動に参加し、目標を達成。 これらの活動に加えさらに地域環境活動があれば積極的に参加すること。

6 代表者による全体の評価と見直し

上記の実践を踏まえ、平成28年10月30日に代表者による全体の評価と見直しを行いました。

※環境経営システムは概ね有効に機能している。

※達成できなかった目標に関しては次期も原則として目標を据え置き達成を目指していくが、現状と乖離していないか確認し、現状と乖離した目標は次期終了・見直し時期をめどに見直しを図ること。

※今期の目標数値に関しては、自動車燃料の削減は目標数値を見直すこと。

その他の未達目標は今期は据え置くが、実践状況次第で見直しを図ること。

※「中小企業等の省エネ・生産性革命投資促進事業費補助金」(経済産業省→(一財)環境共創イニシアチブ)を用いて、老朽化している西営業所の空調設備更新費用の一部に補助金の投入が可能。

上記制度を用いて11月に西営業所の空調機を更新予定のため、次期実践においては電力使用量(低圧)の削減が期待できると思われる。

7 環境関連法規への違反、訴訟などの有無

適用される主な環境関連法規制

廃棄物処理法・自動車リサイクル法・建築物衛生法・消防法

環境関連法規制等の順守状況の定期評価の結果、環境関連法規制等の逸脱はありませんでした。また、関係機関などからの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

8 第57期以降の環境目標

上記の実践を踏まえた上で、第57期・第58期の環境目標を下記のとおり見直しました。

項目 【基準】	第56期 (H27.9~H28.8)	第57期 (H28.9~H29.8)	第58期 (H29.9~H30.8)
電力の二酸化炭素排出量の削減 【第48期 33,658kg-CO ₂ 】 【第48期 46,233kWh】	△30% 23,560kg-CO ₂ 32,363kWh	△30% 23,560kg-CO ₂ 32,363kWh	△30% 23,560kg-CO ₂ 32,363kWh
ガソリンと軽油使用料の削減 【第48期 91,661 kg-CO ₂ 】 【第48期 ガソリン 26,469ℓ】 【第48期 軽油 11,546ℓ】	△15% 77,912 kg-CO ₂ 22,498ℓ 9,814ℓ	△20.5% 72,870 kg-CO ₂ 21,043ℓ 9,179ℓ	△20.5% 72,870 kg-CO ₂ 21,043ℓ 9,179ℓ
自動車燃費の向上 【第50期 9.87 km/ℓ】	+30% 12.83 km/ℓ	+30% 12.83 km/ℓ	+30% 12.83 km/ℓ
環境負荷の少ないサービスや商品を提供する	4件/年	4件/年	4件/年
グリーン購入の推進	2件/年	2件/年	2件/年
一般廃棄物の削減 【第51期 394 kg】	△30% 276kg	△30% 276kg	△30% 276kg
水道使用量の削減 【第48期 270 m ³ 】	△52% 130 m ³	△52% 130 m ³	△52% 130 m ³
地域社会に向けた環境啓発活動	2か所/年	2か所/年	2か所/年

注1：電気の二酸化炭素排出量は中国電力㈱の平成22年度排出係数0.728を使用しています。

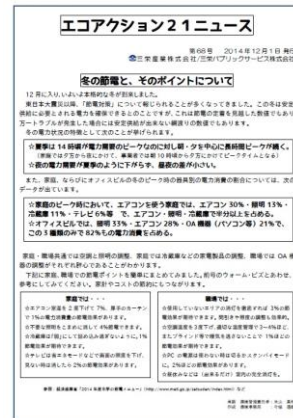
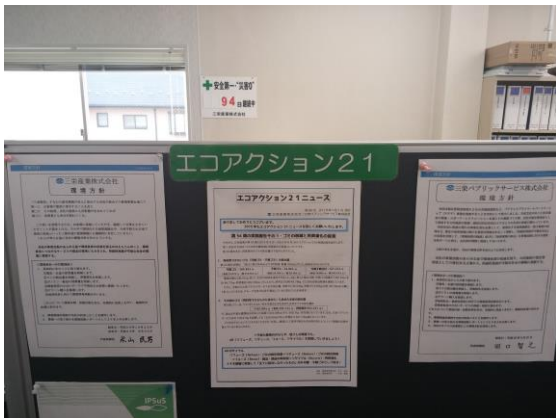
9 各現場での環境活動

三栄産業をはじめとする三栄グループでは各現場の従業員に一般的な環境に対する自覚を高める教育を定期的実施し、二酸化炭素、廃棄物、水使用量の削減を意識したサービスの提供を行うのはもちろんのこと、様々な形で環境啓発や環境負荷の低減につながる活動を行なっています。

※従業員に対しての各種教育（清掃研修・接客講習・あいサポート研修など）の実施



※「エコアクション21 ニュース」の発行による全従業員への環境啓発



※エコカーテン設置



※エコ・スタック作成



※ゴミの分別の徹底、再資源化の促進

